

春風

白居易

一枝先いちし まずず 発ひらくく 苑中えんちゆうの梅うめ

桜杏桃梨次第おうきやうとうりにに開ひらくく

薺花せいか榆ゆ莢きやう深村しんそんの裏うち

亦道またゆうう春風しゆんぷう我わがが為ためにに来きたるる

【作者】白居易(七七二〜八四六年)中唐の大詩人。名は居易(きよい)、字は樂天(らくてん)、号は香山居士(こうざんこじ)、陝西省渭南(せんせいしやういなん)の人、太原(たいげん)の人(山西省)ともいう。家は代々官吏、早くから詩を作り、十六歳「春草の詩」、十七歳「王昭君」の作あり。八〇〇年進士、元しん(げんしん)と親交あり、江西省九江の司馬に左遷された事もあるが、ほほ中央の官にあり、刑部尚書(きやうぶじやうしやう)にて没す。年七十五歳。「長恨歌(ちやうごんか)」、「琵琶行(びわこう)」の大作あり。「白氏長慶集(はくしちやうけいしゆ)」、「白氏文集(はくしもんじゆう)」等我が国にも伝わり、平安文学に感化影響を与えた。

【語釈】*櫻: 桜桃(ゆすらうめ)バラ科 *薺 花: なずな(春の七草の一つ) *榆 莢: にれの實のさや *深 村: 山里
【通釈】春風は先ず宮中の庭園の梅の一枝を開花させ、ゆすらうめ・あんず・桃・梨とほだいに開花させる。又、山深い里では「なずな」の花を咲かせ、「これ」のさやにも吹きわたる。すると私は、春風が私のために来てくれたのだといううれしく思うのである。